

永田町に埋没せず、地元でも汗を流してきました!

Nagashima FORUM 21

<http://www.nagashima21.net/>



未来に誇れる日本! 宣言

長島昭久は、地域主導で「自立」と「共生」の社会を築き、世界で最も暮らしやすい国をつくり、国際社会から頼りにされる日本を実現します。

- 社会保障** 税金のムダ遣い一掃を大前提に、消費税を含む税制の抜本改革で財政基盤を立て直し、子育て・医療・年金・介護・雇用に予算を重点配分し、国民生活の将来不安を解消
- 経済成長** 革新的技術への戦略的な投資で、エネルギー・食糧・環境危機をチャンスに転換し、アジア太平洋地域の巨大市場を内需として成長の糧とするため自由貿易圏構想を主導
- 教育再生** 高校・大学を通じて一年間の「ボランティア活動」を必修単位とし、社会で生きる力を涵養し、我が国文化の源泉である国語や歴史を重視しつつ、世界へ雄飛する冒険心を喚起
- 地域主権** 一院制の国会、道州制で税財源・権限一体の分権改革を断行して「小さい政府」を実現し、ボランティア・ポイント制を導入し、国民全員参加で問題解決にあたる「偉大な社会」を建設
- 外交安保** 「自分の国は自分で守る」という主権国家の原点を踏まえつつ、強固な日米同盟を構築し、中国、インド、ロシアの台頭をプラスに転換するため、「遠交近攻」の戦略的外交を推進



国政7年目、世論をリードする政治家に育ちました。



屈辱を抱きしめて、
『未来に誇れる日本』の旗を高く掲げよう!

平成22年9月の「尖閣事件」を歴史がどう記憶するでしょうか。国力旺盛な中国の圧力の前に膝を屈せざるを得なかった日本。船長釈放という呆気ない結末は、すべての日本国民にとって屈辱的な出来事であり、私自身悔しくて堪りませんでした。同時に私は、これを機に疲弊した国力と自信を失いかけた国民の気力を挽回しなければ、我が国に明日はないと確信しました。そこで、「建白書」をしたため首相官邸へ押し掛けたのです。キーワードは「臥薪嘗胆」。この屈辱を晴らすためには、何が何でも国力を立て直し、戦略的な外交を展開し、我が主権・領土は自分たちの手で守り抜く、という日本国民としての矜持を取り戻すほかないのです。

今日我が国を取り巻く内外情勢は、元寇襲来で鎌倉幕府が減じ、黒船来航で江戸幕府が倒れ、連合軍によって大日本帝国が潰れて以来、史上4度目の国難ともいえるべき深刻な状況です。我が先達たちは、そのつど国民の英知と気力を糾合し、見事に国難を乗り越え新たな時代を切り拓いてきました。同様に私たちも、そろそろその覚悟と決意を固める時を迎えたのではないのでしょうか。

国力を回復するためには、まず旧態依然たる公的機関の無駄を徹底的に排し、非効率な既得権益の壁をブチ破る必要があります。新政権の下で推進している「光のハイウェイ構想」の実現は、世界最高水準のインフラ整備によって、医療や教育からビジネスや余暇の在り方まで根本的に刷新する確かな可能性を秘めています。同時に、国を開き世界に打って出るのです。原発や高速鉄道、水ビジネスなど環境エネルギー分野における我が国の革新的技術をもって、再び「ジャパン・アズ・ナンバー・ワン」の坂の上の雲をめざそうではないですか。

そして、戦略的な外交の一環として、中国古典に倣い「遠交近攻」を実践するのです。中国との長く熾烈な競争（近攻）に勝ち抜くため、インドやロシアやヴェトナムはじめASEAN諸国などの戦略的連携（遠交）を急ぐのです。そして、遠交近攻の要は、同盟国たるアメリカ、準同盟国ともいえる韓国や豪州も含めた戦略的四角形です。私も、政府を離れた自由な立場で、「未来に誇れる日本」を創るために全力で邁進する覚悟です。

今後ともご支援のほどよろしく申し上げます。

衆議院議員 長島昭久

未来に誇れる 日本へ

長島昭久 事務所

〒190-0022 東京都立川市錦町2-2-5 アイビル3F

TEL.042-548-2700 FAX.042-548-2711 E-mail.tokyo21@nagashima21.net

<http://www.nagashima21.net/>

長島昭久blog「翔ぶが如く」 <http://blog.goo.ne.jp/nagashima21/>



通常号1部100円(消費税込み) 年間購読料3,000円(送料含む)

民主 党 プレス 長島 昭久 事務所 (第1・第3金曜日発行)
〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1 電話03-3595-9988 (代表)
press@dpj.or.jp <http://www.dpj.or.jp>

民主党 党員 募集中!

未来に誇れる日本へ

2009年



9月24日

防衛大臣政務官として着任。机上には「大将」同格の四つ星プレート



10月19日

防衛省政務三役会議。左から、楠田政務官、榛葉副大臣、北澤大臣、私



11月13日

衆院安全保障委員会で答弁



11月15日

NHK日曜討論で岡本行夫、森本敏両氏と議論



12月8日

日経・米CSISシンポジウムでアーミテージ元務副長官らと議論



12月20日-22日

訪韓し、李明博大統領と金泰栄国防部長官と会談

防衛大臣政務官日誌

●平成21年9月24日、着任。机上には、千歳在住の自衛隊OBの方手彫りのネームプレートが鎮座。身の引き締まる思い。翌25日から北澤防衛大臣と共に沖縄視察。●10月12-16日で訪米。26日から政権交代後初の臨時国会召集。●11月2日、予算委員会初日にいきなり政務三役として初答弁。NHKニュース9の密着取材を受け、緊張。●12月8日、日経・米CSISシンポジウムに参加。10日、初の部隊視察のため福岡へ。20-22日で訪韓、金泰栄国防部長官(元韓国軍参謀総長)と会談。●平成22年1月12日、安保50周年を記念した日米新

2010年



1月12日

日米パネル討論会で河野太郎自民党代議士らと議論



1月14日-15日

空自千歳基地でミサイル防衛システムを視察



3月1日

EMPOWER JAPAN!春季セミナーで前原国交相(当時)と議論



3月5日

海自横須賀基地で海上にて栄誉礼を受ける



3月5日

防衛大学校講堂で全学生および海外留学生向けに英語でスピーチ



3月19日-22日

岡田外相(当時)と共にハイチでPKO陸自部隊を激励



4月30日

第三回超党派議員交流で訪米



5月2日

イスラエル戦争の英雄・バラク副首相兼国防相と会談



5月13日

参院外務防衛委員会でヒゲの佐藤議員と激しい議論



6月9日

菅直人新政権で政務官に留任し、官邸で記念撮影に臨む



6月17日

ワシントンにて日米安保50年・日米修好150年記念シンポで講演



7月2日

横須賀にて海賊対処水上部隊の帰国行事を統載



8月9日

アジア太平洋国会議員会議(APFPP)に参加



9月10日

空自百里基地で最新鋭戦闘機F-15体験搭乗

建白書について

平成22年9月27日、同志議員と共に、尖閣事件に対する「建白書」を菅総理に提出(仙谷官房長官受理)。台頭する中国のプレッシャーを跳ね返すためには、国力を早期に回復させ、国家の意思を鮮明にした戦略的外交を実践すべし、とした8項目からなる政策提言「臥薪嘗胆」は、マスコミはじめ有識者の間に大きな反響を呼び起こした。



9月21日



9月27日

「建白書」を仙谷官房長官へ手渡す



市ヶ谷の防衛省にて防衛政務官退任式。「蛍の光」が胸に染みる



10月3日

テレビ朝日討論番組にて今年8度目の石破代議士との直接対決

長島昭久 防衛大臣政務官の一日 (平成22年1月19日)

- 05:30~ 起床、ウォーキング
- 06:40~ 自宅を出発、中央線で出勤
- 08:00~ 新聞記者との朝食懇談
- 09:00~11:30 役所レクの合間に、記者の取材や企業、研究所関係者の表敬受け
- 12:00~ 自衛隊支援団体の賀詞交歓会で挨拶(公務)
- 12:40~ 代議士会
- 13:00~ 衆院本会議で代表質問
- 15:00~16:00 予算委員会質問勉強会
- 17:00~ 地元高齢者団体からの陳情 / 立川事務所
- 18:00~18:30 高幡不動駅前で遊覧
- 18:45~ 地元議員決起集会に参加
- 19:30~22:00 地元各種団体の賀詞交歓会5軒はしご
- 22:30~ 帰宅
- 23:00~ デスクワーク
- 25:00~ 就寝

時代パネルで講演。14-15日、極寒の北海道千歳ミサイル防衛基地を視察。16日、来日中のダニエル・イノウエ米上院議員と懇談。17日、祖父の7回忌で墓前に政権交代を報告。●2月6日、晴海埠頭にてインド洋派遣自衛艦隊帰国行事。8年にわたる重大任務完遂に首を垂れる。●3月3日、硫黄島にて日米記念式典。5日、防衛大学校全学生の前で記念講演。18日、横須賀にて海賊派遣自衛艦隊帰国行事を主宰。20-23日、岡田外相と共にハイチ派遣PKO部隊視察。●4月29-5月5日、アメリカ、イギリス、シリア、イスラエル、ドイツへ海外出張。ゴラン高原

PKO部隊視察の後、イスラエルでバラク副首相兼国防相と会談。22日、海自哨戒機で東シナ海視察、300隻以上の中国漁船に愕然。●6月9日、菅直人新内閣で再任。17-18日、ワシントンで開催された日米安保50周年記念シンポジウムにて英語で講演。●7月20-22日、再訪韓。●8月9日、麻生太郎日本団長を議長とするアジア太平洋国会議員会議に出席。●9月10日、百里基地からF-15体験搭乗で快晴の空へ。7.5Gの過酷な環境下で日夜訓練に励んでいる隊員への敬意と感謝の念募る。21日、退任式。防衛省の全職員挙げて送り出していただく。